保育所　桜井市立第１保育所

２歳児通年

はばたくなら ③

子どもたちが主体的に生活や遊びを楽しむ

取組について

■はじめに…

〇４月当初、育児担当制の実践編の本を参考に、担当グループに分かれ、時間差で生活できるように目安の時間など細かく決めて進めていた。しかし、子どもの登所時間や食べるペースなどの違いから計画通りにはいかず、子どものペースや思いに寄り添いづらいことに気づいた。

〇食事面では、担当グループ全員で食事をしていたが、甘えて食べさせてほしい子や野菜の苦手な子、もう少し遊びたい子などそれぞれの姿があり、子どもの思いに寄り添いながら介助していると保育士が立ったり、座ったりとバタバタして、一人一人にゆったりと関わることができなかった。

〇排泄面では、便座に座ってもすぐに立ったり、トイレでなかなかタイミングが合わず、オムツやパンツに出たりして、履き替えることもあった。

〇遊びの面では、はじめはなかなか遊びに入りづらい姿や広い空間があると走ったり、コーナーの玩具を持っていろいろなところに移動したりと落ち着かない姿が見られた。

■一人一人の姿に応じて生活（食事・排泄・睡眠・着脱）じっくりと関わるゆるやかな担当制保育を行いながら情緒の安定をはかり、自立へと向かうための環境づくりや保育士の援助について考えたり、子どもの成長発達に応じた遊びの環境づくりや子どもが主体的に遊べるための人的環境・物的環境の中で「友だちや先生と一緒にいきいきと遊べる子ども」を育てていきたいと取り組みを始めた。

取組を通して

〇ゆるやかな担当制の中で、子どもとの信頼関係を築くことで遊びの意欲につながってきた。子どもの主体性を育てるためには、まずは一人一人を受け止め情緒の安定をはかることから始まる。「やってみたい・おもしろい・もっとやってみたい」という意欲が持てるような遊びの環境とそれを支える保育士の援助が幼児期の育ちにつながることを職員間で確認しあった。

〇コロナ渦でマスク生活が余儀なくされていたこともあり、発語を促せる機会が少なかった。言葉が出づらい子や自分の思いを簡単な言葉で伝えづらい子などの子どもの姿が見られた。生活面も含めて、言葉のやり取りを楽しむことで、発語が促せるように環境を整えられたらもっと良かったと感じた。

実践事例　ゆるやかな担当制保育

生活

①②⑤

1. 食事

4月当初・・・担当グループで一斉に食事をしていた。

ゆるやかな担当制保育を取り入れる

バタバタして、一人一人の思いに寄り添えていない

6月以降・・・少人数で子どもの様子を見ながら食べたい子から食事をし、遊びたい子は遊ぶようにした。

子どもの生活やペースに応じて関わることで、子どもの姿がよく見えた。

2. 排泄面

子どもがトイレに行きたくなる環境やトイレの仕方を知れるようにすることで楽しい雰囲気や気持ちでトイレに行けた。また、子どもと一緒にトイレに行くことで、排泄がトイレで成功した喜びに共感でき、トイレで排泄をする習慣が身についてきた。

3. 着脱面

４月当初より１対１で着替えをすることで、１０月頃には自分で着替えたり、服を畳んだりするようになってきた。

遊び

食事・排泄・睡眠・着脱などじっくり関わってもらうことで、生活が安定し情緒の安定につながってきた。年齢発達に応じた遊びの環境を整え、子どもたちが主体的に遊ぶ姿を考察した。

ビニールテープで遊ぶ

どこにはるのかな？

せんせいここきって

廊下に貼ってみたら子どもたちはどうするかな

ぼくもはりたい

グーグーパできたよ

様々な素材を使って見立て遊びを楽しむ

⑥⑧⑨⑩

道路作りたい

くるま ぶっぶー

子どものつぶやきに応じて一緒に遊ぶことで、遊びが広がっていく。また、友だちが楽しそうに遊んでいる様子を見て、一緒のことをしてみたいと刺激を受けることで、「遊びたい」「やってみたい」という意欲につながる。

（梱包用クッション材）で遊ぶ。

お寿司みたい わたしまぐろすき

違う色のテープをだした どうするかな？

いくら食べたい つぶつぶちょうだい

画用紙やシールを用意すると どうするかな？

黄色のテープを貼ったらどうするかな？

牛乳みたい

③⑥⑨⑩

ポテトすき

ごはんできたよ！ はい！どうぞ！

ひとつの素材から子どものつぶやきに応じて、様々な素材を用意することで、遊びが発展していき、作ったり、ままごとをしたりとさまざまな遊びにつながっていった。

三角のおもちゃ

⑥⑧⑩

並べたり、積み重ねたりしてイメージして、見立て遊びを楽しむ。

いろいろの色を用意すると遊びやすいかな？

重ねて
みたよ

みてみて
みかんとりんご

おにぎり
いっぱい
ならべてるねん

先生のマネして、
タワー作ってみ
る

見立て遊びが楽しめるように玩具を用意することで、積み重ねたり、並べたり、イメージしたものを作ったりして自由に見立て遊びを楽しみ、子どもの思いやつぶやきに共感することで、創造力や発想力につながり、思い思いの表現を楽しんだ。また、子どもの思いを聞くことで、自分の思いを話すことで、会話をし、言葉による伝えあいも楽しむことができた。

終わりに・・・

■ 4月当初、育児担当制の実践編の本を参考に、担当グループに分かれ、時間差で生活できるように目安の時間など細かく決めて進めていた。しかし、子どもの登所時間や食べるペースなどの違いから計画通りにはいかず、子どものペースや思いに寄り添うことができにくい状況であった。

■担当にとらわれず、ゆるやかな担当制保育を行うことで、生活面では、少人数で分かれて、食事や排泄、着替えを一人一人に丁寧に関わることで“自分で食べてみよう”“トイレ行ってくる”“自分で着替える”と自分でできることは自分でやってみようとする姿が見られるようになった。

■食事面では、時間差で少人数でゆったりと食事ができ、丁寧に関わることで、苦手な食べ物を自ら食べようとしたり、遊びたい子の気持ちも受け止め、遊んでから食事をとることで安心感や満足感を感じながら過ごせるようになった。

■排泄面では、排尿感覚を把握し、誘いかけたり、トイレでの成功体験を見逃さずに共に喜び合うように関わることで、オムツからパンツに移行が成功したりする姿が見られた。

■遊びでは、子どもたちの成長発達に応じた環境を整える中、保育士が作った玩具を「自分も作ってみたい」という思いを受け止めたことから子どもたちから次々に違うアイディアがでてきた。子どもの思いにすぐに応じることで遊びが発展し、「楽しかった。」「次は〇〇してみたい」と意欲をもって、保育士に自分の気持ちを話す姿が多くみられるようになっていった。